（様式）

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委　員　名	中村　のりゆき
視　察　地	新潟県村上市		
調査事項	村上市スケートパークについて		
視察年月日	令和５年 11 月 14 日		

視察内容

2019 年４月、国内最大規模の屋内スケートボード施設が完成。

＜建設の経緯＞　既存施設である日本海スケートパークが老朽化、また、東京オリンピックの正式種目に選定されたことから機運が高まった。建設の課題として財源の確保と限られたスペースの活用(2000 平米以内)

財源確保の目途が立ちスケートボードの聖地を目指し建設が決定。

＜事業費の概要と運営費＞

総事業費 15 億５千万円の内訳は、過疎債 14 億５千万円、他助成金、企業版ふるさと納税で殆どの予算が賄え、一般財源は約 2,300 万円のみ。敷地は企業から寄付により提供を受けた。年間の運営費は令和５年予算額約 4,340 万円。（市直営で業務を兼務しているため人件費は除外）

運営費の内訳は、歳入は企業版ふるさと納税、個人版ふるさと納税の基金、使用料、広告収入。歳出は光熱水費やスクールの運営費等。（スケートボード連盟に委託　年間 700 万円）

＜利用状況＞

全体では年間　28,000 人（ボルダリング、トレーニングセンター利用者含む）

スケートボードのアリーナ利用は年間　15,000 人（市内、県内、県外、三分の一ずつ）

　18 歳未満の利用が 11,000 人、大人 4,000 人

＜体験型教育旅行の受け入れ＞

令和２年度から教育旅行の受け入れを行う。（県内小・中学校４校）宿泊は、瀬波温泉を利用。令和４年度は 15 校に拡大し、観光とスポーツの連携も図られた。

＜事業成果・今後の方向性＞

初心者教室を毎週火曜日に開催、ミドル教室を水曜日に開催している。

市内小学校の体育授業（総合学習）にスケートボードを採用し、ジュニア世代の普及・育成を行っている。(R4 年度体育授業利用者 1,056 人)

一般市民にスケートボードが必ずしも浸透していない現状があり、スケートボード人口を増やさなければいけないと考えているとのこと。

令和４年３月 30 日、スポーツ庁より、ナショナルトレーニングセンター強化拠点施設に指定。パリオリンピックに向け国内で 53 名が強化選手に指定されており、トップレベルの競技者が集中的・継続的にトレーニング・強化活動を行う活動拠点の役割を担うことに。全日本クラスの大会も開催されている。選手の動作分析を行えるシステムもあることから、インドネシア、韓国、台湾など海外からの合宿も行われている。

＜視察を終えて＞旭川市も来年にスケートボードパークの施設の建設を検討しておりますが、積雪寒冷地ということを考えると年間通じて利用できる屋内施設が望ましいと思います。

※　「視察内容」欄には，調査結果に対する意見，本市における実施の可能性，課題等を記載すること。

（様式）

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委　員　名	中村　のりゆき
視　察　地	新潟県長岡市		
調査事項	市街地再開発事業「米百俵プレイスミライエ長岡」について		
視察年月日	令和5年11月14日		

視察内容

＜施設建設の経緯について＞

平成21年、大和デパートの撤退以降に、伊勢丹等のデパートの誘致という議論もあったが、他の地域に商業施設があることもあり、別なプランとして人と人の情報交流の場を作ることができないかということから計画が進んできたとのこと。URが個人、金融機関、民間企業、行政と様々調整、土地取得、権利変換を行い、事業を施行。

＜施設の概要＞

総事業費は約247億円（市負担分約102億円）、西館35億円（市負担分20億円）

東館は令和7年度にオープン予定。

西館が本年7月22日にオープン。（米百俵プライスミライエ長岡の主な使用は3階から5階部分）3階と5階の一部に「互尊文庫」図書館が入る。また、5階には4大学1高専と商工会議所、長岡市とで協創事業を展開する「NaDeC　BASE」を配置。

＜施設の管理運営＞

施設全体はミライエ長岡企画推進室が管理・運営（市の直営）

互尊文庫は（株）図書館流通センターと（有）BACHの共同

＜施設のコンセプト＞

〇国漢学校と米百俵の精神

戊辰戦争からの復興に取り組む長岡藩大参事・小林虎三郎は三根山藩から送られてきた救援米を活用し、国漢学校をこの地に移転開校した。藩士だけでなく、町民、農民が分け隔てなく学ぶことができた。人づくりの大切さを説く「米百俵の精神」が息づいている。

〇互尊思想

誰もが同等の価値があり、自己を尊敬するとともに、他人も尊敬すべきであるという思想。

上記の二つの精神が、根幹となっている。

①　人づくり・学びの場

　互尊文庫を移転し、新しいスタイルの図書館としてオープン。

　NDC（日本10進分類法）ではなく、「くらす」、「はたらく」、「ひらめく」のエリアテーマと１５の選書テーマ別に配架している。

　図書館内では自由に会話することができる。予約スペースもある(18席)

②　産業づくり、交流の場　③にぎわい　→市民グループが無料で利用できる部屋が複数ある。

＜視察を終えて＞　国土交通省出身の市長が、有利な再開発事業の交付金を獲得し、事業認可についても短期間で行っているとのことだった。本市においても、中心市街地、特に買物公園の再開発は喫緊の課題であり、今津市長のリーダーシップを期待したい。

※　「視察内容」欄には，調査結果に対する意見，本市における実施の可能性，課題等を記載すること。

（様式）

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委　員　名	中村　のりゆき
視　察　地	東京都小金井市		
調査事項	観光振興について（現地視察：江戸東京たてもの園）		
視察年月日	令和５年 11 月 15 日～16 日		

視察内容

＜観光振興について＞

一般社団法人小金井市観光まちおこし協会は、小金井市の観光振興を図り、文化の向上と産業の発展に寄与することを目的としまして、平成２８年４月１日に設立。

平成２１年に小金井市商工会が運営する事業組織としまして、小金井市産業振興計画の推進室、小金井の里というのを開設しております。その後、平成２３年に新たな産業振興のプランが制定されたことに伴いまして、小金井の里の位置づけが事業推進組織から、市民の力を生かした取組をコーディネートし、小金井市の特性である人のポテンシャルを最大限に活用できる組織、中間支援組織への関連づけと変更されました。

中間支援組織の設立については、既存の団体との統合も含め、費用対効果を考慮し検討を重ねた結果、中間支援組織の担うべき機能と、当初からあった小金井市観光協会が今後担おうとしている機能との親和性が非常に高く、効率的な観点からも、観光協会に中間支援組織の機能を統合することは合理的であるとの結論に至り、小金井の里を廃止して、一般社団法人小金井市観光まちおこし協会を設立。①プロモーション事業、②情報発信事業、③町おこし事業を行っている。

●わくわく都民農園小金井

50歳以上の方を対象に50区画を貸出しているとのこと。

1区画（2メートル×10メートル）、年間使用量は5万5千円。

８～９割が小金井市民とのこと。利用者に月に４～６回（月・金曜日）指導を行い、20種類の農作物を作れるようにしている。近隣の保育園の利用もある。

●まちのにぎわいづくりの設計図

産業振興プランに具体的なものが書いていない。プランを通して市民の発想を促したいとのこと。

●となりまちフォトギャラリー

小金井市、武蔵野市、三鷹市の3市を巡って写真をとってもらい、応募者には景品が当たる事業。複数年行なったが応募者が少なかったために、事業打ち切りとなった。

＜視察を通して＞

観光地という認識はあまり持っていないようだが、スタジオジブリのフィールなどのアニメーション制作会社があり、また多くの公園敷地があるということから、観光地のポテンシャルを持っていると感じました。

本市にはDMOがあり、中間支援組織的な役割を果たしていると思いますが、観光資源が少ない地域でも創意工夫を行う中で試行錯誤して生まれたアイデアには学ぶ点も多いと感じました。

（様式）

＜江戸東京たてもの園について＞

◎たてもの園の概要について

江戸東京博物館分館「江戸東京たてもの館」は現地保存が不可能な文化的・歴史的価値が高い建物を移築・復元し、保存、展示することにより、貴重な文化遺産として時代に継承することを目的に設置した野外博物館。設立は１９９３年３月２８日

●観覧料一般４００円、６５歳以上２００円、大学生・専門学校３２０円、高校生、都外中学生２００円。団体割引２０％引き。都内在住中学生、また全ての小学生以下は無料。

●年間観覧者数　令和３年度 116,052 名、令和 4 年度 214,083 人。（年間 25 万人が目標）

●復元建造物の保全　30 棟（30 年前は 12 棟から始まった）

●外国人観光客状況　コロナ禍では激減したが今年度の総入場者はコロナ前の 80％まで回復

●今後の展望　現状では収集計画はなく、建物の維持管理が中心となっている。東京都内は歴史的建造物が失われる状況が続いており、歴史的建造物の復元・保存といった役割を果たす意義は大きいと考えているとのこと。

＜視察を終えて＞

移設するだけで数億円かかるということから、歴史的建造物を保存するためには、大きな予算が必要にはなる。しかしながら、３０棟の展示が一堂に集まっていることから観覧にくる人の満足度は相当高いものになっているように思える。本市においても歴史的建造物があるが、どのような展示方法がとれるのかを一度検討することも必要だと感じました。

※　「視察内容」欄には，調査結果に対する意見，本市における実施の可能性，課題等を記載すること。